

日光 - 日本における植物学の生まれた場所

日光は明治以前から薬草の採取地として有名でした。明治時代（1868–1912）になって近代植物学が誕生すると英外交官アーネスト・サトウ（1843–1929）の息子で植物学者の武田久吉（1883–1972）など、多くの国内外の学者が日光で植物を採取、研究を行いました。（その結果、）ニッコウアザミや、ナンタイシダ、シラネアオイなどの種が日光で発見されます。このような経緯から、和名に地名（ニッコウ）を取り入れた植物や、学名に日光（nikoensis）の名を含めた植物などが生まれています。このような研究は今日も続いています。